

なつかみの郷

祝祭日は国旗「日の丸」を揚げましょう  
君が代は 千代に八千代に  
さざれ石の いわおとなりて  
こけのむすまで

第18号  
平成27年  
12月1日発行  
奈加美神社  
泉佐野市中庄 834  
電話 462-7080

大東亜戦争終結七十年洋上慰霊祭

奈加美神社 宮司 北岡忠澄

本年は終戦七十年の節目であり、全国各地で戦没者の慰霊追悼の神事や式典が行われています。大阪の神社界においては、神道政治連盟大阪府本部が主管となり、大阪府神社



庁・念法眞教  
教団（仏教系）共催にて、戦艦大和の沈没地点で洋上慰霊祭を執り行いました。



（戦艦大和沈没地点での献花）

込み、九月二十八日午前十時に神戸港を出港しました。折りしも台風二十一号の直後で波のうねりが強く、たてによこにと随分揺れましたが、翌二十九日午後一時より鹿児島県の坊ノ岬沖（大和沈没地点）にて、神仏合同での洋上慰霊祭を斎行いたしました。その後参加者全員が甲板に出て、汽笛を合図に船上から白菊の献花を行いました。



（ばしふいっくびーなす号）

先日、以前に読んだ元零戦パイロット・小高登貫氏の著書「あ、青春零戦隊」を改めて読み直しました。そのあとがきには次のように記されています。

「現在の日本が、「自分たちが戦わなかったら、日本は滅びる」といって死んでいった特攻隊員や、多くの純真な若者たちの尊い犠牲のうえに築かれていることを、現在の若い人たちにも知ってもらわなければならぬ。そうでなければ、死んだ戦友の霊も永久に浮かばれないし、遺族の方々も救われない。」

今日の平和は、先の大戦で家族を思い、故郷を思い、国を思って戦われた方々の礎のうえに成り立っているということをお忘れではありません。

実際に前線で戦われた方の手記を読むと、当時の若者がどんな気持ちで散っていったのか、胸が熱く締めつけられる思いがします。戦後七十年の節目、私たち日本人は戦後の自虐史観から脱却して真実を学び取り、これからの日本の平和と世界の国々との共存共栄について考えて行かなければなりません。

## 戦時中の奈加美神社

戦時中の往時を偲ぶ写真はほとんど残っていませんが、かろうじて残っているのが左の写真でガラス乾板も残っています。



この写真がいつ撮影されたのか記録は残っておりませんが、神職が四名、軍服を着た軍人さん、正面の拝殿前に国旗が掲げられていることから、戦時中の紀元節や天長節、明治節などの神事の記念写真ではないかと思われます。

この日新校区からも多くの兵隊さんが出征されました。当時の奈加美神社の歴史の一端をここに紹介させて頂きます。

「奈加美神社の遠き思い出 ～出征の朝～」

話者 中庄・奥野友三郎

昭和十六年七月徴兵検査で甲種合格を宣告された。歩兵科で二月に奈良連隊に入営との赤紙をもらった。その矢先の十二月八日、太平洋戦争が布告された。

大変なことになったと思った。入隊の朝が来た。青年団の楽団を先頭に国防婦人会や在郷軍人会とか各種団体に大勢見送られながら、奈加美神社へ。拝殿から玉砂利を踏んで境内に入る。神主さんから玉串をもらって本殿に捧げ、君が代の演奏に合わせて最敬礼。

「一生懸命お国のために戦います。どうか武運長久をお守下さい。」と真剣にお祈りした。氏神様が守って下さるのだと安心感がこみ上げてきた。

神社の広場一杯の見送りの方々に元氣一杯で挨拶をして最後に、後に残した年老いた両親のことをよろしくお願ひしますと結んだ。佐野駅で見送りの人の歓呼にこたえ、元氣で別れ征途についた。奈良連隊で約一週間で戦地へ。戦いながら学ぶ野戦教育を経て四年間各地を転戦したが、武運よく無事生還できたのも、氏神様の御加護のおかげと思っている。

「なかみの昔を明日に伝える会

～中庄・上瓦屋～」より抜粋

平成十八年発行（聞き書 北山理）

終戦後、奥野友三郎さんのように武運よく生還された方もおられますが、二百万人以上の方々が戦地で犠牲になり、靖国神社を始め各都道府県の護国神社に英霊としてまつられています。

私たちが今生かされてきているこの平和な世の中は、戦争で散華された数多くの英霊の尊い犠牲のうえに成り立っています。そういつた認識を次の世代にも示さなければなりません。

是非とも機会を見つけて、英霊が安らかにお鎮まりになる東京九段の靖国神社、大阪市住之江区の大阪護国神社にご参拝頂き、英霊に感謝を捧げ恒久なる平和をご祈願下さい。

### 写真提供のお願い

奈加美神社には昔の記録写真がほとんど残っておりません。昭和40年以前の奈加美神社の写真などございましたら、神社資料として提供頂ければ有難く存じます。現物はお返しいたしますので、ご協力下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

### ご家庭に神棚を

～御札をおまつりしましょう～

私たちは日々自然の恩恵を受けて過ごしています。とは言え人生いろいろ。「悪いことばかり続いて神も仏もあつたもんじゃない。」「なかなか思うようにいかないけど今日

があるのは神さまのおかげ。」あなたはどちらでしょう。人はつい原因を他に求めてしまいがちですが、案外自分のなかに潜んでいるかも知れません。

良くないことが続くと自分に与えられた試験として受け止め、自己を見つめ直して反省しましょう。悪いことはやがて消え去り明るい兆しがあらわれるものです。人生山あり谷あり。私たちは目には見えない「何か」に守られ、導かれ過ごしています。その「何か」は個々によって感じ方が違うかもしれませんが、神さまであり、仏さまであり、ご先祖さまです。日々の暮らしが「あたりまえ」でなく「ありがたい」と思えることが幸せに近づく第一歩です。

朝一番、神棚や仏壇に手を合わせて、おはようございます。いつもお守り下さってありがとうございます。今日も一日よろしくお願います。この何気ない「感謝」と「祈り」、とてもシンプルですが、とても清々しい気持ちになります。

ご家庭で神棚をおまつりすることは日本の美しい伝統であり、風習です。皆さまのご家庭にも神棚をおまつりしてみたいかごでしょうか。当社の社務所には各種神棚の見本を取り揃えておりますので、どうぞお気軽にご相談ください。

### 昭憲皇太后御歌 〈鏡〉

朝ごとに むかふかがみの くもりなく  
あらまほしきは 心なりけり

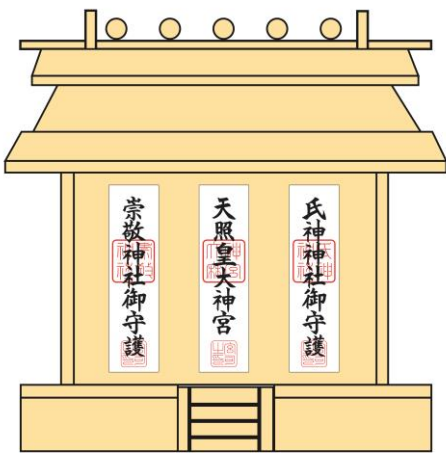
昭憲皇太后は明治天皇の皇后で、多くの御歌（みうた）を残されています。毎朝向う鏡が曇りなくきれいであるように人の心もそうありたいものです。という意味合いです。

伊勢の神宮の御祭神・天照大御神のご神体は「八咫の鏡」（やたのかがみ）で、「鏡」は古来より神さまの依り代となる信仰の対象です。そして多くの神社でもご本殿の前に神鏡（しんきょう）が置かれ、神鏡を通してご本殿の奥にお鎮まりになる神さまに拝礼します。神棚にも扉の正面には神鏡をお飾りします。「鏡」は人の姿を映すように人の心を映すとも言われます。

毎朝神さまと向き合って「感謝」と「祈り」を捧げましょう。

### 神棚と御札のまつり方

#### 三社づくりの場合



中央に①神宮大麻(天照大御神)、向って右に②氏神神社の御札、向って左に③崇敬神社の御札をおまつりします

#### 一社づくりの場合



手前から①神宮大麻、②氏神神社(奈加美神社)③崇敬神社の順に重ねておまつりします。

- ① 神宮大麻（じんぐうたいま）  
（伊勢神宮の天照大御神の御札）
- ② 氏神神社の御札  
（奈加美神社の御札）

※①②は奈加美神社で授与いたしております。  
③ 崇敬神社の御札

- ①②以外に特に信仰する神社がある場合は、各社でお受けになられた御札を合わせておまつりください。ない場合は①②のみおまつりください。
- ・ 神棚・御札は、北を背にして南向き、もしくは西を背にして東向きにおまつりします。
- ・ なるべく目線より高い位置で清浄を心掛けます。
- ・ 神さまへの神饌（お食事）は米・酒・塩・水を始め季節のものをお供えます。
- ・ 御札・御守は一年に一度新しく改めます。

神棚は立派なものではないといけない訳ではありません。各ご家庭で神棚をおまつりするスペースは様々かと思えます。御札を納めるコンパクトな札宮などもございますので、お気軽にご相談ください。まずは御札をおまつりすることから始めましょう。

## 新嘗祭（にいなめさい）

十一月二十三日、各町の町会長や農業の水利組合長を始め各種団体のご参列を頂き、新嘗祭を執り行いました。

このお祭りは宮中を始め全国津々浦々の神社で執り行われる大変重要な神事で、春の祈年祭（きねんさい）と対になる収穫感謝のお祭りです。

春に五穀豊穡を願い、神々の恵み、自然の恵みによって、豊かな収穫がもたらされたことに神恩感謝を捧げます。

ご神前には新米を始め、新米で醸した新酒、新米で搗いたお餅、旬の野菜や果物をお供えます。昔はこの新嘗祭に新米をお供えしてからのち、初めて新米を頂くという奥床しい



習わしがありました。今ではそのような美風も消えつつありますが、これからも大切にしたいものです。

写真の稲穂は当社で栽培した「イセヒカリ」という品種で、伊勢神宮から伝わった品種です。

## 安産戌の日まいり



奈加美神社に伝わる大絵馬  
円山応挙の門弟により描かれたもので、神功皇后と  
応神天皇を抱く武内宿禰。

当社の主祭神は応神天皇（八幡さま）ですが、配祭神には母君の神功皇后がお祀りされており、古事記によると約一八〇〇年前、神功皇后は朝鮮半島に出征した際、お腹に応神天皇を身ごもっており、その時に石を帯の中に巻き付け、帰還後に無事お産みになったことが記されています。このことから神功皇后は安産の神として崇められ、岩田帯の起源にもなったと言われています。

安産祈願は一般的に妊娠五ヶ月の戌の日にお祓いを受け、岩田帯を着帯します。戌の日にお参りするの犬が多産であり、安産であることに因みます。

目出度く子宝に恵まれた際には、戌の日の安産祈願にお参り下さい。安産御守、岩田帯と共に、普段でも簡易にお使い頂けるコルセット型の腹帯もお授けしております。お電話でのご予約をお願いします。

平成28年 安産戌の日表

1月	5日(火) 17日(日) 29日(金)
2月	10日(水) 22日(月)
3月	5日(土) 17日(木) 29日(火)
4月	10日(日) 22日(金)
5月	4日(水) 16日(月) 28日(土)
6月	9日(木) 21日(火)
7月	3日(日) 15日(金) 27日(水)
8月	8日(月) 20日(土)
9月	1日(木) 13日(火) 25日(日)
10月	7日(金) 19日(水) 31日(月)
11月	12日(土) 24日(木)
12月	6日(火) 18日(日) 30日(金)

### 今後の行事予定

十二月三十一日 師走の大祓・歳末神恩感謝祭  
一月一日・元旦 新春特別奉納行事  
（川崎貴久氏による尺八・琴・和太鼓の奉納演奏）  
一月九日・十一日 十日戎神事・吉兆授与  
二月三日節分 厄除け・家内安全ご祈祷奉仕



### ご祈祷のご案内

お宮参り・安産祈願・七五三  
厄除け・車のお祓い・地鎮祭  
住宅入居のお祓い、各種お祓い  
神道家霊祭、神棚の相談等も  
受付致しております  
お電話にてお問合わせ下さい

公式ホームページ開設  
<http://www.nakami.org>